

5/22 広討論集会へ

(3時:A121) — 熊取斗争の現状と課題 —

全学の学生・教職員皆さん！我々は、5月初めに提起した「京大原子炉即時停止、81年度2号炉稼働要求反対、警官常駐化反対」京大1万人署名の中で、京大原子炉の犯罪性、2号炉計画の不当性・危険性を訴えてきた。我々は、これを集約し、更に、昨年度の熊取斗争の総括と地平の中で現情報を正しく把握し、そして、とりわけ新入生を中心とする熊取斗争への決起を乞うべく、5-22広討論集会への圧倒的結集を訴える。

■ 1号炉即時停止、2号炉計画絶対阻止に向けた闘争陣型を構築せよ

京大原子炉が引き起こした放射能汚染問題は、我々に、京大原子炉が放射能汚染という具体的な犯罪行為によって、付近住民に被曝を強要する中で、研究を行ってきた事実に目を向けさせた。しかも、住民や学生の批判・糾弾の声を一切無視して、原子炉の運転・研究を続行してきた。

今、京大原子炉は、2号炉建設を何が何でも押し進めようという覚悟で来年度予算要求を成し切らんとしている。2年連続実施額ゼロという「汚辱」を一気に挽回すべく、極反動総長沢田の2号炉推進発言をうしろ立てとして、まさに必死の態である。このような京大原子炉の策動を、我々は我々の立場性と責任性をかけて、現地住民とともに、断固として粉碎しなければならない。とりわけ、6月期、概算要求において、2号炉着工策動を阻止するため、京大原子炉・京大当局への追及を大衆的に貫徹しなければならない。

2号炉計画の不当性は、あいまいな必要性とともに、現在までの京大原子炉当局の住民無視に端的に表れている。また、2号炉の危険性は、平常時の放射能放出とともに、地震評価の甘さ、人口密集地での立地など悪条件は明らかである。住民工作として、体育館を建設し、デマビラを配布し、法外な地元対策費を払うと

いう行態は、過疎地に原発を押しつけ、異なる収奪を進める政府-独占資本の姿と全く重なり合っていない。我々は、このような京大原子炉、2号炉計画を絶対に許してはならない。

■ 日帝の原子力政策と絶対決せよ

日帝は、自らの政治危機を、石油危機・エネルギー危機キャンペーンで隠ぺいし、国民からの搾取・収奪の体制の中に原子力をはきりと位置付け、さらに、核防護を口実とした警官配備に見られるように、治安強圧体制を強化し、独自核武装をも準備しようとしている。この中において、京大原子炉は、桂山・柴田などの御用学者を筆頭とする人材を養成するとともに、研究においてもその基礎を支えている。このように、京大原子炉は、日帝に奉仕する腐敗した研究体制があり、それだからこそ、放射能汚染を無視し、2号炉計画を強引に進めようとするのである。

また、原子力は、まさしく、人民に対する、未来に対する膨大な負の遺産を生み出しつつある。我々は、日帝の原子力政策と絶対決し、京大原子炉の研究体制を解体するなか、原子力幻想を打ち破っていかなければならない。

全ての皆さんが、5-22広討論集会に参加し、討論を積み重ねるとともに、主体的に熊取斗争に参加せよん事を訴えたい。

共に闘わん！

全学学生自治会

闘争会